

表4-1 施設変遷年表

西暦

元号

江 戸

探掘の開始と
鉱山町の形成

明治

1年

10年

20年

30年

40年

44年

大 正

1年

15年

1年

10年

20年

30年

40年

50年

60年

64年

1年

平 成

10年

2008

項目

地区

施設

大立

(慶長6年～)
道遊の割戸の
開削が始まる

～M20頃 大規模採掘の開始

M10? 大立堅坑機(木造)

M13 捲揚機(蒸気)

M20 高任堅坑

※M18～22頃
大島高任が道遊の割戸の
大規模な露頭掘採掘を行う

M32 道遊坑

※M33 道遊の露頭掘り中止

M24頃 第二搗鉱場

M24頃 第一搗鉱場

(慶長期)上相川で
初期の鉱山町が
来る

(慶長期)来島した
山仕が左沢流域を
開発

高任・
間ノ山

(江戸年間)
製錬業者の町が
形成される

(～M14頃
北沢地区が佐渡鉱山の
製錬の拠点となる)

斜面→

M24～25 旧北沢青化・浮選鉱所

M20頃～I インクライン

M2頃? 不明建物

～M25 混濁所、淘汰所、溶鉱所等 ※M37 沈殿製錬法・混濁製錬法廃止

M2頃? 不明建物

～M25 コナ置き場等

M2頃? 不明建物

～M25 混濁所等

M2頃? 不明建物

～M25 分析所等

斜面→

～M29 御料局佐渡支庁

M2頃? 不明建物

～M25 御料局支庁等

北沢

(慶長期)大間より
南の海岸沿いに
町が形成される

※M20頃
北沢～大間に
架空索道架設
(北沢地区造成
残土を大間埋立
に使用)

海浜→

M23～25 護岸(人造石)

I年間～S初親 本道トラス橋

海浜→

T3 クレーン台座(北側2基)

S10 クレーン台座(南側1基)

海浜→

S13頃 ローダー橋(南北2本)

～大正年間 煉瓦倉庫(1)

～大正年間 煉瓦倉庫(2)

～大正年間 捨鉱倉庫(1)、捨鉱倉庫(2)

S13～15 鉱石倉庫

S15 大間港火力発電所

(S18 発電所の半分が供出される)

(S28 稼働停止、発電設備輸出)

大間

(慶長期)大間より
南の海岸沿いに
町が形成される

※M20頃
北沢～大間に
架空索道架設
(北沢地区造成
残土を大間埋立
に使用)

海浜→

M23～25 護岸(人造石)

I年間～S初親 本道トラス橋

海浜→

T3 クレーン台座(北側2基)

S10 クレーン台座(南側1基)

海浜→

S13頃 ローダー橋(南北2本)

～大正年間 煉瓦倉庫(1)

～大正年間 煉瓦倉庫(2)

～大正年間 捨鉱倉庫(1)、捨鉱倉庫(2)

S13～15 鉱石倉庫

S15 大間港火力発電所

(S18 発電所の半分が供出される)

(S28 稼働停止、発電設備輸出)

戸地

T4 戸地川第一発電所 (史跡指定範囲外)

T8 戸地川第二発電所

選鉱、製錬
の発展

近代操業法の基礎形成

沈殿製錬法導入

混濁、沈殿製錬法の廃止と
青化製錬法の導入

熔鉱炉製錬の中止と
直島製錬所への出荷

浮遊選鉱法
の導入

熔鑛製錬の中止と
大阪製錬所への出荷

銅鉱山として稼働

観光鉱山

相川金銀山
／佐渡奉行所
鉱山局?

M3～18 相川金銀山?
／工部省佐渡出張所

M22～29
相川金銀山?
／御料局

M29～H1 佐渡鉱山／三菱合資会社、三菱鉱業(株)、太平鉱業(株)、三菱金属鉱業(株)、三菱金属(株)

H1～ 佐渡鉱山
／㈱ゴールデン佐渡・佐渡市
※大間港は別途民間会社が管理

施設の主な機能と
製錬の流れ
(最拡大期)

採 鉱

採 鉱
および交通

動力→大立・高任

管理

選 鉱

動力→高任

選鉱・抽出

運搬

選鉱・抽出

採掘(浜石)

動力→北沢

管理

運 搬

運 搬
(一時保管)

動 力→北沢

動 力→大立・高任

主要工程
鉱石等の主要ルート
その他

凡例： ■ 現存施設 □ 現存施設(一部のみ) ○ 前身施設

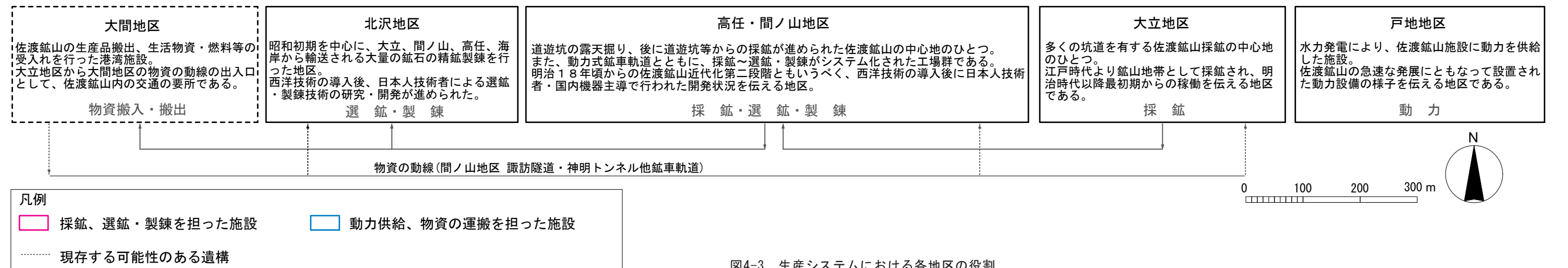
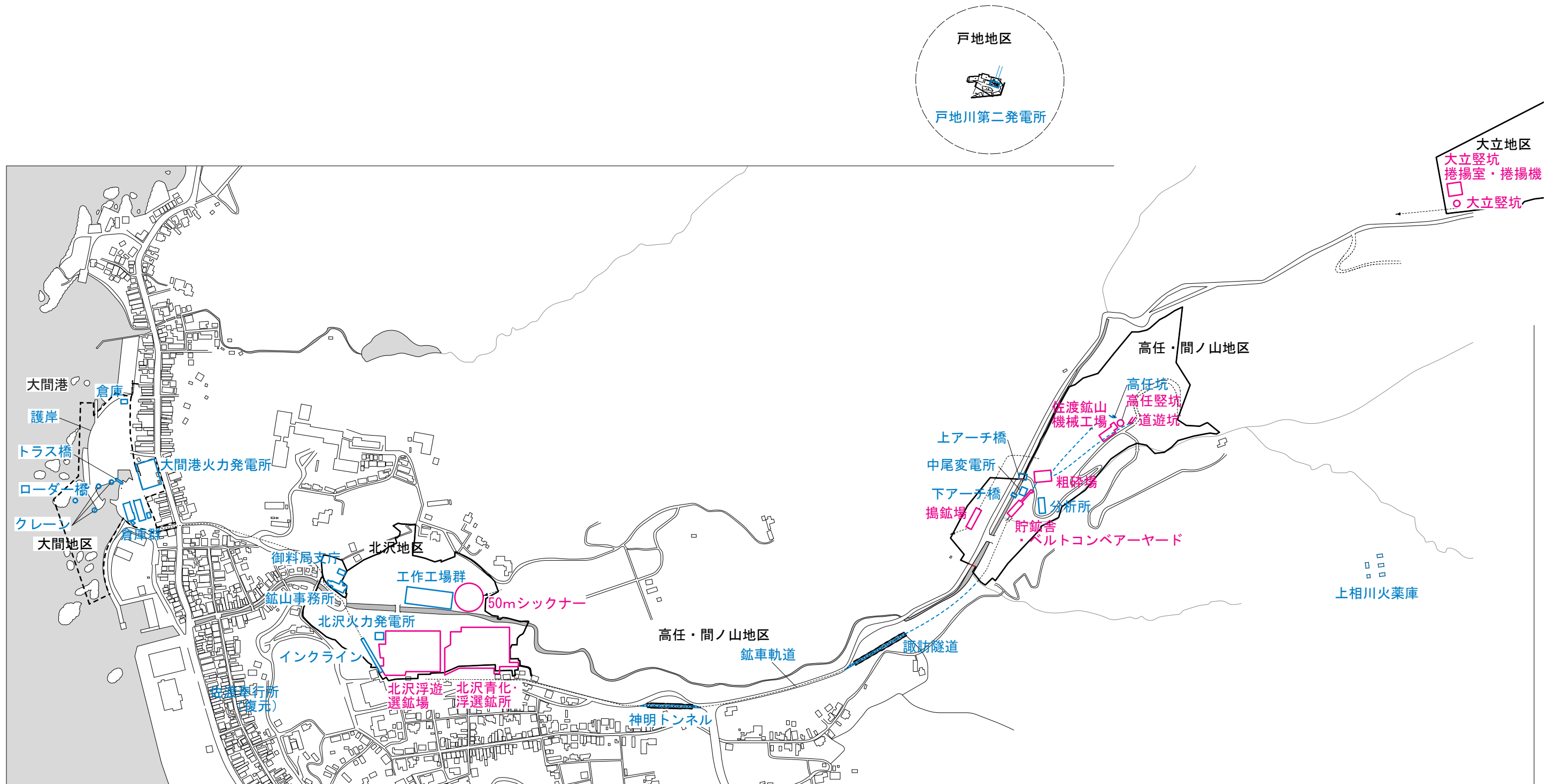


図4-3 生産システムにおける各地区の役割